

【表大雪地域／東大雪地域登山道維持管理部会アンケート】概要
新型コロナウイルスの影響による各団体の活動の現状と方向性について

実施期間：2020年5月14日～31日

回答数（ご協力いただいた団体数）：14団体

1. 各団体の活動の現状について、新型コロナウイルス感染症の影響を含めて教えてください（実施できていること、逆に、困っていることなど）。

- 各団体におけるミーティングや総会など会議を中止し、書面やインターネットを活用した代替手段をとる団体が多い。
- 直近で（5月まで）予定していた活動やイベントについては、すべて中止とされた。

2. 大雪山登山シーズン開始以降の貴団体の活動の方向性について教えてください。また、登山道維持管理部会への対応など新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、これまでどおりできそうかなども含めて教えてください。

- 6月以降については、新型コロナウイルス感染症の状況がどのようになるか見通すことができない中で、各団体とも悩まれている状況がうかがわれた。
- 6月以降秋冬までのイベントや活動等について既に中止を決定した団体もある一方、感染防止に配慮した内容や方法に変更した上で活動の実施を計画、模索する団体もある。
- 登山道維持管理部会への対応が困難であるとする団体はいなかった。

3. 大雪山の登山シーズン（6月下旬頃～）において、登山者に対してどのような情報発信をしていくべきとお考えですか？もし、お考えがありましたら教えてください。

- 多くの皆様から、大雪山国立公園と登山に関する情報発信が必要であるという強い意見が多かった。
- 情報発信の内容としては、大雪山国立公園の登山のありかた、施設の管理運営に関する情報、感染症対策に配慮した登山の方法、新型コロナウイルス感染防止の観点からの登山コースの状況（密集箇所その他感染リスクが比較的高い区間や場所など）など。
- 一部の方から登山の自粛をお願いする必要があるのではないかと意見があった一方、より多くの方が、登山者が来ることを前提とした対応の必要性を感じていた。その中で、外出自粛解除の反動等により登山者は増えるのではないかと、登山者自身が感染症への影響を考慮して、通常利用者数が少ない場所に行こうとするのではないかと指摘があった。

4. コロナウイルス収束後、大雪山の利用拠点（ふもと）の利用、観光がどのように変化していく（またが変化させていくべき）とお考えですか？もし、お考えがありましたら教えてください。

- 新型コロナウイルス収束後は、「単純に流行開始以前の社会状況に戻り利用拠点にも人が以前と同様の程度に戻ってくる」との考えの人は少なく、旅行形態の一層の個人化の進展等、今までとは異なる状況となり、新たな対応が必要と考えている方が多かった。
- 新型コロナウイルスへの対応を踏まえた形態の旅行、地域の魅力の再発見や体

験を重視した付加価値の高い観光を創り上げ、情報発信を積極的に行っていく必要があるとの意見があった。

○紅葉期など、観光客が集中する時期があるため、平準化や分散化等の対応が必要との意見もあった。

5. その他、上記1～4で、記載したりないこと等、ご希望、懸念など気になることをなんでもご記入ください。

○ガイド業は極めて厳しい状況。この機会に、令和2年度（補正予算）国立・国定公園への誘客の推進事業費補正予算なども活用しつつ、登山道の環境整備（ササ刈り、標識、インターネット）を。

○大雪山国立公園の管理者側からの情報発信が特に重要。管理者は安易に利用者に自粛を求めず、最大限にできることをすべき。

○関係者での議論の場の設定、新型コロナウイルスの影響を受けた今シーズンの利用動向調査。

○新型コロナウイルスの影響を受けた対応の中で、利用が保護を凌駕しないようにすることが重要。

○年内のイベント自粛等の新型コロナウイルス感染症を広めない対応を。

○文化的な生活・精神を維持するために登山や散策を必要としている人もいるので、利用したい人には開放すべき。

新型コロナウイルスの影響による各団体の活動の現状と方向性について
【登山道維持管理部会アンケート】

回答団体名：山のトイレを考える会

回答日：令和2年5月18日

1. 貴団体の活動の現状について、新型コロナウイルス感染症の影響を含めて教えてください（実施できていること、逆に、困っていることなど）。

- ・3/14の第21回山のトイレフォーラムは中止
- ・同日に開催予定の定期総会は、書面総会に変更してMLと郵送で議案書を送付して実施（5/31成立予定）
- ・事務局運営委員のミーティングが開催できず、全て事務局MLで実施

2. 大雪山登山シーズン開始以降の貴団体の活動の方向性について教えてください。また、登山道維持管理部会への対応など新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、これまでどおりできそうかなども含めて教えてください。

- ・6/9に事務局運営委員のミーティングを実施予定。2020年活動の役割分担実施
- ・6/28の美瑛富士携帯トイレブースの冬囲い外しに参加予定
- ・7/12からの美瑛富士トイレ管理連絡会によるパトロールは計画どおり実施予定
- ・2020年の今後の事業はほぼ実施できると思う
- ・登山道維持管理部会にも出席予定

3. 大雪山の登山シーズン（6月下旬頃～）において、登山者に対してどのような情報発信をしていくべきとお考えですか？もし、お考えがありましたら教えてください。

- ①「通常年として当会の情報発信内容」；2020年版の山のトイレマップを作成、昨年同様に大雪山国立公園や知床国立公園等に8000部を目標に配布予定
- ②「新型コロナウイルス感染症の影響の事を考えた場合」；大雪山国立公園連絡協議会として発信すべきか環境省等行政から発信すべきか判らないが、次の内容について考慮が必要と考える。本州の山岳団体や山小屋営業団体からは、今夏登山シーズンでの登山者へ登山のあり方や登山自粛等についてさえ意見が発信されている。では、北海道大雪山国立公園においては新型コロナ感染症に絡む登山のあり方について、シーズン開始前に意思表示を発信すべきなのだろうか？あるいは、既に環境省等は何かをお考えでアクションを取ろうとしているのだろうか。北海道の山々、特に大雪山に来てくれる道外・道内の登山者に発信することがあれば意思統一したものが欲しいものである（無理かな？）。個人的には全て自己責任として、「自粛強制の嵐」など無いことを願っているが…。
- ③少なくとも黒岳石室や大雪山系避難小屋の利用方法については、新型コロナ感染を理由とした利用制限等を想定しているなら事前の注意事項等の発信が必要と考えるし、何も制限等せずに例年と同様の利用が可能ならばその旨の情報発信が欲しい。
- ④白雲避難小屋は建替え工事の為、利用不可承知。野営指定地の利用可能情報を利用者に親切なように頻度を多く、表示(同情報発信)サイトも多く(大雪山国立公園連絡協議会HP、環境省HP、レンジャー報告、振興局サイト、上川町、観光協会等)して情報発信を願いたい。昨年のヒサゴ沼避難小屋工事の事を教訓に。

4. コロナウイルス収束後、大雪山の利用拠点（ふもと）の利用、観光がどのように変化していく（または変化させていくべき）とお考えですか？もし、お考えがありましたら教えてください。

- ①新型コロナ収束後のこと（変化）を問うならば、新型コロナがどのように収束していった場合を想定してのことかと前提条件を提示したうえで問わないと、あまりにも方向性が異なった話しになると懸念をいただく。
- ②問いの趣旨とは異なるけれど、新型コロナ感染症が出現しなかった条件でのこと、2021年アドベンチャートラベル(AT)国際サミットを北海道への誘致を道知事が表明した。これは、大雪山国立公園でのふもと拠点の利用、大雪山国立公園山岳部での利用はどのような具体的イメージで考えられていたか、まず説明して頂きたいし、レクチャーを受けたい。そのうえで、新型コロナ感染収束後（前項の収束形態を条件設定したうえで）、それはどのように変化せざるを得ないか、新しい姿について話しが出来ると思う。

5. その他、上記1～4で、記載したりないこと等、ご希望、懸念など気になることをなんでもご記入ください。

- ①北海道山岳ガイド協会に所属のガイドの皆さんは、新型コロナ感染症の影響で仕事が激減して生活が成り立たなくなっている。新型コロナ収束後に大雪山国立公園山岳部でATをイメージすれば大雪山系から十勝連峰へ縦走するコース（大雪山グランドトラバース）をキチンと整備しておくことは重要なことである。三川台から双子池・オプタテシケの間の登山道整備（笹刈り）は一般的な単価費用では割が合わず請負が難しいと美瑛山岳会の方々が言うておられた。それならこの緊急時の環境省の地域の雇用の維持・確保の補助事業（ツアー準備に関する支援事業）にて、三川台から双子池・オプタテシケの間の登山道整備（笹刈り）を北海道山岳ガイド協会に所属のガイドの皆さん達に請負ってもらえるように、環境省から内々に山岳ガイド協会へ相談して頂いたらどうだろうかと思う次第です。

【回答先】

◎表大雪地域登山道維持管理部会 構成員・オブザーバー

環境省東川管理官事務所 国立公園管理官 齋藤

〒071-1423 北海道上川郡東川町東町1-13-15

TEL:0166-82-2527/FAX:0166-82-5086/E-mail: AKANE_SAITO@env.go.jp

◎東大雪地域登山道維持管理部会 構成員・オブザーバー

環境省上士幌管理官事務所 国立公園管理官 橋口

〒080-1408 北海道河東郡上士幌町字上士幌東3線235-33

TEL:01564-2-3337/FAX:01564-2-2933/E-mail: SHUNYA_HASHIGUCHI@env.go.jp

新型コロナウイルスの影響による各団体の活動の現状と方向性について
【登山道維持管理部会アンケート】

回答団体名： 大雪山・山守隊 岡崎哲三 回答日：令和2年5月18日

1. 貴団体の活動の現状について、新型コロナウイルス感染症の影響を含めて教えてください（実施できていること、逆に、困っていることなど）。

現状は夏山シーズン前なので大きな変化はありませんが、北海道以外での講演や業務がほぼなくなりました。
北海道においても依頼されていたイベントは中止や延期となっています。
今現在は毎年の農業を行ないつつ、夏季に出来る作業の企画等を考えています。

2. 大雪山登山シーズン開始以降の貴団体の活動の方向性について教えてください。また、登山道維持管理部会への対応など新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、これまでどおりできそうかなども含めて教えてください。

昨年まで行なっていたイベントなどの人を集める作業は現状のところ計画出来ません。しかしながら、当団体は少人数でも作業できるスキルがあり、大雪山の登山道やインフラを整備していくことが目的であるため、今期は少人数での作業効率をさらに高めることを考えています。また、登山道整備方法を内外に伝えるための資料作りや今まで作業した個所を調査し、とくに植生復元方法の手法を専門家を入れて検討します。今期は停滞ではなく、次へのスキルアップ期間にするという方向です。また、業務の量次第では、山岳関係者と共に登山道整備等を行いたいと思っています。

登山道維持管理部会への対応は、こちらから聞きたいところです。

できそうですか？

民間同士では会って話し合うことは普通に続けております。できないと言っているのは行政が多いように感じます。こちらはいつも通りです。

3. 大雪山の登山シーズン（6月下旬頃～）において、登山者に対してどのような情報発信をしていくべきとお考えですか？もし、お考えがありましたら教えてください。

各登山道やコースの状況をコロナ対策の視点で細かく伝える。
大雪山でのとくに込み合う場所や時期を知らせて、その時期や場所は感染確率が高いと伝える。来る人が各自で判断できるような情報を出す。大雪山には家を出てから誰にも会わずに帰ってくるようなルートは多々あります。内容にはルールと共に救助体制は整っていない、もしくはたいへん時間がかかる旨を載せる。要は現状の大雪山の管理体制を細かく載せることで登山者の自己管理を求める。登山は基本的に自己責任だと思えます。

登山口近くの混みあうコンビニや少し離れた込み合わない店も紹介し、分散を図ることもできるはず。自粛と言っても人は来ます。来た人を分散させる情報発信は人の少ない大雪山に適していると思えます。

本州の登山と大雪山の登山は人の量が大きく違います。流れに合わせる部分と、これからの流れを作る部分をしっかりと考えて伝えるべきだと思います。

また、今期はいつもは人が少ないコースにも登山者が多くなると思えます。そうな

ったときにはどのような問題が起きるかを管理側で共有しておき、何か起きた時に後手にならぬよう、対応の結論を出しておくことは必要です。
利用者の視点と、来た人に対応する管理側の視点は違います。それらが伝わるように発信できなければ、誤解されますけどね。

4. コロナウイルス収束後、大雪山の利用拠点（ふもと）の利用、観光がどのように変化していく（または変化させていくべき）とお考えですか？もし、お考えがありましたら教えてください。

今回のコロナで、人が来ないと大雪山観光で養われていた分野が壊滅的になると理解出来ました。また、様々な人が現場の正確な情報を求めていることも理解しました。いち早く利用と情報発信をしていた方々もいたと思います。
求められている情報をしっかりと把握し、それぞれに特化した情報を出しつつ大雪山に限らない繋がりを作りながら、情報提示をし、迎え入れるインフラを整えることができれば、今まで以上の良い環境ができると思います。
間違っても、「時が過ぎればまた人は戻る」という受け身の考えにならないようにするべきだと考えます。
また、今回の管理側の対応で大雪山に嫌気がさした人がいたとしたら、周りで見比べて、状況判断が出来た人だと思います。そういう人ほどいち早く離れてしまう可能性があり、大雪山にとっては大きな損害だと思っています。時が過ぎたら良い人材は消えています。

個人的には、都市部の大変さや田舎の住みやすさ、テレワークで出来ることの広がり、自然環境の素晴らしさは、多くの人を実感したのではないかと思います。チャンスが見えすぎて、「何をやろうかな」と選り好みをするほど出来ることが多くなっていると感じています。

5. その他、上記1～4で、記載したりないこと等、ご希望、懸念など気になることをなんでもご記入ください。

大雪山へ来てコロナが拡大するとは思えません。自粛中のスーパーへの買い出しのほうが感染リスクは高いと思います。自粛と言って世間から叩かれないようにすることは簡単ですが、民間のダメージは計り知れません。大雪山の人の量と利用形態を内外に伝えて、国立公園の自粛解除の先駆けを作る、という気持ちで行動を起こすべきと考えます(科学的に大雪山登山でコロナ拡大がはっきりとしているなら別ですが)。

個人的には管理に迷惑がかかるから来るな、自粛しろ、というのは管理側が言うことではないような気がします。誰が来ても、どんな状況でも、その状況に合わせて努力するのが管理側であり、それを見て「自粛」しようというのが利用者側だと思います。なので、営業行為を自粛するのはそれぞれだと思います。

利用を「自粛してくれ」という場合は、現状の整っていない管理体制をしっかりと伝える発信になるべきだと思います。

もう一度言いますが、自粛するのは登山者であり、管理側は必死になって原状回復や次へのきっかけをつくらなければならないはずで、管理を自粛というのは公私混同ではないかと思っています。

山関係者、とくに山が好きで自営やアルバイトで生計を立てているような方々は、資本的な体力がなく、今回の場合は山から離れざるを得ません。死活問題なんです。それがどういうことか理解するためにも、話し合いや聞き取りの機会をもっと作る

べきだったと思います。

知り合いの間では、もはや今期の営業をあきらめている人もおられます。何も発信せず、動きのない大雪山に嫌気を覚える人もいます。新しくなった大連協が緊急時に何もしない団体だ、ということが明確になったとき、今後手伝おうという気は起きないでしょう。

とにかく動いて動いて、「馬鹿か」と言われても聞いて動いて、様々な人に希望をもたせるような行動が必要だったんです。

スタートは大失敗だったと思います。というよりうろたえているだけで何もしていないように見えました。スタートすらしていないですね。

「言われてからやるような管理者に誰が希望をもてるのか！」と自戒しています。

以上、登山道維持管理部会としての「管理側」と、大雪山で生業を得ている「民間側」の意識とを混合した意見です。

【回答先】

◎表大雪地域登山道維持管理部会 構成員・オブザーバー

環境省東川管理官事務所 国立公園管理官 齋藤

〒071-1423 北海道上川郡東川町東町1-13-15

TEL:0166-82-2527/FAX:0166-82-5086/E-mail : AKANE_SAITO@env.go.jp

◎東大雪地域登山道維持管理部会 構成員・オブザーバー

環境省上士幌管理官事務所 国立公園管理官 橋口

〒080-1408 北海道河東郡上士幌町字上士幌東3線235-33

TEL:01564-2-3337/FAX:01564-2-2933/ E-mail : SHUNYA_HASHIGUCHI@env.go.jp

新型コロナウイルスの影響による各団体の活動の現状と方向性について
【登山道維持管理部会アンケート】

回答団体名：北海道大学大学院農学研究院花卉・緑地計画学研究室

回答日：令和2年5月17日

1. 貴団体の活動の現状について、新型コロナウイルス感染症の影響を含めて教えてください（実施できていること、逆に、困っていることなど）。

大学では、教員は在宅勤務、出張も自粛。学生・院生も登校禁止となっています。そのため、今夏の調査・研究の目処が立たない状況です。

2. 大雪山登山シーズン開始以降の貴団体の活動の方向性について教えてください。また、登山道維持管理部会への対応など新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、これまでどおりできそうかなども含めて教えてください。

現在、全国の国立公園、山岳地、都市公園も含めて、利用停止およびその後の再開の状況について情報収集、整理を進めています。アフターコロナでは、新たな生活様式に従った管理者の対応、利用者の行動や意識の変化が予想され、それに対する調査を、現地およびオンラインで計画中です。

3. 大雪山の登山シーズン（6月下旬頃～）において、登山者に対してどのような情報発信をしていくべきとお考えですか？もし、お考えがありましたら教えてください。

登山は夏山だけではないので、より危険性が高く、遭難などの発生時の影響が大きい春山、残雪期登山から速やかに情報提供が必要と考えます。

情報提供の前には、まず、関係者での方針の統一、確認が必要と考えます。そのために、オンラインツールも活用した協議会の改組、総会、部会の発足が前提となります。非公式にでも部会のメンバーで、メーリングリストなどを作って、情報共有・意見交換を始めるべきだと思います。

観光客を含め、登山者は、山岳医療救助機構が行ったアンケート調査の結果なども踏まえると、近距離、マイカー移動、テント利用、マイナールート利用などが増加します。平日利用も増えて欲しいですが、雇用状況は以前と激変はしないので変化は期待できません。学校の夏休みの短縮により、夏休み利用は減りますが、逆にお盆での集中が懸念されます。それにより、駐車場の混雑・不足、野営地の混雑・不足、マイナールートへの分散が考えられます。それにより、これまでになかった場所で路上駐車、野営地周辺の踏みつけ、し尿の散乱、マイナールートでの遭難・救助要請の増加が懸念されます。トムラウシ、十勝連峰、愛山溪温泉、東大雪などは要注意だと思っています。

管理者には、ビジターセンター、ロープウェイなど交通機関、宿泊、避難小屋、野営地での三密、除菌対策、感染症発症時の対応・連絡体制の整備などが求められます。特に無人の避難小屋・野営地での状況の把握、感染症発症時の対応について警察・救急も含めて、準備しておく必要があります。

個人的には、避難小屋・野営地の予約システムの構築が急がれると思います。管理

者の対応が間に合わないのであれば、今年は避難小屋は全て休止（緊急時のみ受け入れる）、野営地も基本は利用して欲しくないというメッセージを早めに発信すべきだと思います。

登山者には、上記の管理状況の対応方針、登山者の行動変化を踏まえて、留意すべきことを、感染症対策も含めて、早めに発信すべきだと思います。

また、各地で実際に、人の存在が希薄になったことによって野生動物の活動が活発化しているとの情報もあります。まだはっきりとそうとは言えないと思いますが、これまで以上にヒグマの動向には気を付けて、登山者への情報発信、注意喚起に努めるべきだと思います。

山岳医療救助機構

登山再開に関するアンケート調査

登山再開に向けた知識（計画と準備編）

<https://sangakui.jp/information/post-1399/>

4. コロナウイルス収束後、大雪山の利用拠点（ふもと）の利用、観光がどのように変化していく（またが変化させていくべき）とお考えですか？もし、お考えがありましたら教えてください。

コロナウイルスの完全な収束は当分は期待できず、新たな生活様式に応じた対応、変化が必要です。上記のように、観光客の動きも変わります。外国からの入国制限がいつ解除されるかも不明ですが、インバウンド対応も急に急ぐ必要はなさそうです。

受け入れたとしても、すでに各地で対応が始まっていますが、人数を少なくして高付加価値にシフトしたツアーや観光商品が望まれるようになります。プライベートツアーも増えるでしょう。観光客自身が、三密になる移動手段や宿泊場所、利用拠点を望まなくなる可能性があります。

大雪山でどのような利用が望ましいか、ビジョンを踏まえて議論、準備する時間が与えられたと考えるべきだと思います。

5. その他、上記1～4で、記載したりないこと等、ご希望、懸念など気になることをなんでもご記入ください。

今後の対応などを、早めに議論する場が作られることを望みます。

登山ツアー各社の動向、意向の調査、登山者の意向調査に加え、実際のシーズン中の利用状況のモニタリング（密度も含めて）とその解析が今後のために必要です。大学の研究としても取り組みますが、部会の構成員としてみなさまと取り組みたいと考えています。

【回答先】

◎表大雪地域登山道維持管理部会 構成員・オブザーバー

環境省東川管理官事務所 国立公園管理官 齋藤

〒071-1423 北海道上川郡東川町東町1-13-15

TEL:0166-82-2527/FAX:0166-82-5086/E-mail : AKANE_SAITO@env.go.jp

◎東大雪地域登山道維持管理部会 構成員・オブザーバー

環境省上士幌管理官事務所 国立公園管理官 橋口

〒080-1408 北海道河東郡上士幌町字上士幌東3線235-33

TEL:01564-2-3337／FAX:01564-2-2933／ E-mail : SHUNYA_HASHIGUCHI@env.go.jp

新型コロナウイルスの影響による各団体の活動の現状と方向性について

【登山道維持管理部会アンケート】

回答団体名： 山樂舎BEAR

回答日：令和2年5月19日

1. 貴団体の活動の現状について、新型コロナウイルス感染症の影響を含めて教えてください（実施できていること、逆に、困っていることなど）。

収束の目処がたっていないため、日程を組むことも集客もできない。基本的に今季の自主的な活動は諦めている。

2. 大雪山登山シーズン開始以降の貴団体の活動の方向性について教えてください。また、登山道維持管理部会への対応など新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、これまでどおりできそうかなども含めて教えてください。

公募ツアーなどは実施せず、プライベートガイドのみ、感染予防に留意して行う。

3. 大雪山の登山シーズン（6月下旬頃～）において、登山者に対してどのような情報発信をしていくべきとお考えですか？もし、お考えがありましたら教えてください。

よくわからないが、避難小屋などでは社会的距離を保つように注意喚起するとか、感染予防に努めながらの登山をしていただくよう情報発信をするべき。

4. コロナウイルス収束後、大雪山の利用拠点（ふもと）の利用、観光がどのように変化していく（または変化させていくべき）とお考えですか？もし、お考えがありましたら教えてください。

ホテルの倒産や廃業・バス路線の縮小・観光バス会社やタクシー会社の倒産・廃業が予想される。レンタカー利用での個人や家族での旅行が主流になり、飲食店よりもコンビニなどでのテイクアウトの食事が多くなるのではないかと。

5. その他、上記1～4で、記載したりないこと等、ご希望、懸念など気になることをなんでもご記入ください。

ガイド事業者の中にはこれを機に転職するという人もいる。特に子育て世代や若いガイドの中には先が見えないことによるガイド事業への不安が大きい。これらの世代が欠けることで、技術やノウハウの伝承が難しくなる。

【回答先】

◎表大雪地域登山道維持管理部会 構成員・オブザーバー

環境省東川管理官事務所 国立公園管理官 齋藤

〒071-1423 北海道上川郡東川町東町1-13-15

TEL:0166-82-2527/FAX:0166-82-5086/E-mail: AKANE_SAITO@env.go.jp

◎東大雪地域登山道維持管理部会 構成員・オブザーバー

環境省上士幌管理官事務所 国立公園管理官 橋口

〒080-1408 北海道河東郡上士幌町字上士幌東3線235-33

TEL:01564-2-3337/FAX:01564-2-2933/E-mail: SHUNYA_HASHIGUCHI@env.go.jp

新型コロナウイルスの影響による各団体の活動の現状と方向性について
【登山道維持管理部会アンケート】

回答団体名： 大雪と石狩の自然を守る会

回答日：令和2年5月14日

1. 貴団体の活動の現状について、新型コロナウイルス感染症の影響を含めて教えてください（実施できていること、逆に、困っていることなど）。

総会を含めて多くの活動・行事が通常開催が出来ず困っています。比較的多くの人が集まるようなイベント等は、中止、延期、部分開催する形で対処しています。大雪山講座「ひぐま大学」は、予定の5月に入学・室内セミナー・フィールド講座などが出来ないため、6月中旬以降に内容を変更して実施を予定しています。しかしながら、新型コロナウイルスの状況によっては再判断が必要かも知れません。

2. 大雪山登山シーズン開始以降の貴団体の活動の方向性について教えてください。また、登山道維持管理部会への対応など新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、これまでどおりできそうかなども含めて教えてください。

どこかの時点で新型コロナウイルスが終息したとしても、今年度については活動に一定の配慮と対策が必要と考えています。しかし、機械的な一斉自粛は、会の継続課題の遂行や活動体制に大きな影響が出る可能性がありますので、客観的情勢を注視しながら独自の工夫・対策をしながら出来る活動は実施する方向です。

登山道管理部会は、必要な事業は別として、会議や情報交換等は可能な限りネットを活用する方向がよいと思います。

3. 大雪山の登山シーズン（6月下旬頃～）において、登山者に対してどのような情報発信をしていくべきとお考えですか？もし、お考えがありましたら教えてください。

各地から不特定多数の人が訪れることを基本にコロナ情勢を見ながら、現地の交通事情や交通手段、避難小屋やキャンプ場の状況、携帯やスマホ等の利用可能エリア、遭難・事故とは別の緊急対応先等についての情報発信が必要と思われます。

4. コロナウイルス収束後、大雪山の利用拠点（ふもと）の利用、観光がどのように変化していく（またが変化させていくべき）とお考えですか？もし、お考えがありましたら教えてください。

従来的な大量移動の観光や利用は減少するのでは。その拠点に来ないと分からない自然や地域の魅力、人や地域とのつながりが実感できる体験、およびそのことが出来るツアーや観光などが求められるのでは。

5. その他、上記1～4で、記載したりないこと等、ご希望、懸念など気になることをなんでもご記入ください。

大雪山国立公園の価値を見直し、多面的で多様な利用があつてよいと思いますが、利用が保護を凌駕しない対策やしくみを優先させるべきです。

【回答先】

◎表大雪地域登山道維持管理部会 構成員・オブザーバー

環境省東川管理官事務所 国立公園管理官 齋藤

〒071-1423 北海道上川郡東川町東町1-13-15

TEL:0166-82-2527／FAX:0166-82-5086／E-mail : AKANE_SAITO@env.go.jp

◎東大雪地域登山道維持管理部会 構成員・オブザーバー

環境省上士幌管理官事務所 国立公園管理官 橋口

〒080-1408 北海道河東郡上士幌町字上士幌東3線235-33

TEL:01564-2-3337／FAX:01564-2-2933／ E-mail : SHUNYA_HASHIGUCHI@env.go.jp

新型コロナウイルスの影響による各団体の活動の現状と方向性について
【登山道維持管理部会アンケート】

回答団体名：道央地区勤労者山岳連盟 伊吹省道 回答日：令和2年5月15日

1. 貴団体の活動の現状について、新型コロナウイルス感染症の影響を含めて教えてください（実施できていること、逆に、困っていることなど）。

4月21日に緊急事態宣言の対応として、山岳四団体（日本勤労者山岳連盟、日本山岳・スポーツライミング協会、日本山岳会、日本山岳ガイド協会）連名で登山自粛のお願いができています。この要請に従い加盟団体の山岳会の総会は書面による開催に変更またはメーリングリストによる開催になりました。また4月から6月までの連盟の行事、クリーンハイクや市民登山教室などは中止となりました、11月の登山研究集會も中止です。

2. 大雪山登山シーズン開始以降の貴団体の活動の方向性について教えてください。また、登山道維持管理部会への対応など新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、これまでどおりできそうかなども含めて教えてください。

当連盟ではコロナ対策は年末まで続くと見ており、登山の自粛と三密の集會はZOOMやメーリングリストによる會議に切り替えています。特に家族の心配を考慮せざるをえない状況です（高齢者の感染を心配している家族が多い）。また、登山道管理部会への対応や美瑛富士携帯トイレ管理パトロールの実施が困難になる可能性があり、とても懸念しています。当連盟としては中止せざるを得ない状況です。

3. 大雪山の登山シーズン（6月下旬頃～）において、登山者に対してどのような情報発信をしていくべきとお考えですか？もし、お考えがありましたら教えてください。

登山そのものは、悪いものではないと思いますが、基本的には行動の自粛と登山事故による医療施設への負担をかけない事を會員にお願いしています。

4. コロナウイルス収束後、大雪山の利用拠点（ふもと）の利用、観光がどのように変化していく（または変化させていくべき）とお考えですか？もし、お考えがありましたら教えてください。

今のような行動の自粛には忍耐の限度があり、開放感にひたりたいという欲求は誰にもあると思いますが、すでに經濟が数か月間止まっており、生活困窮者の問題が起こり、政府の支援対策も後手に回っているので、元に戻るとは思っていません。今後は横のつながりの助け合い活動が主になると思います。登山している場合か？

5. その他、上記1～4で、記載したりないこと等、ご希望、懸念など気になることをなんでもご記入ください。

環境省北海道事務所として、先が見えない状況ではあるけれど、年内の行事の中止を決断すべきだと思います。当面の様子見はやめた方がいいと思います。悲觀的な判断をしていますが、状況が好転したときは、その時点で考えればよいと思います。

【回答先】

◎表大雪地域登山道維持管理部会 構成員・オブザーバー

環境省東川管理官事務所 国立公園管理官 齋藤

〒071-1423 北海道上川郡東川町東町1-13-15

TEL:0166-82-2527／FAX:0166-82-5086／E-mail : AKANE_SAITO@env.go.jp

◎東大雪地域登山道維持管理部会 構成員・オブザーバー

環境省上士幌管理官事務所 国立公園管理官 橋口

〒080-1408 北海道河東郡上士幌町字上士幌東3線235-33

TEL:01564-2-3337／FAX:01564-2-2933／ E-mail : SHUNYA_HASHIGUCHI@env.go.jp

新型コロナウイルスの影響による各団体の活動の現状と方向性について
【登山道維持管理部会アンケート】

回答団体名：山岳レクリエーション管理研究会（事務局長：山口和男）

回答日：令和2年5月15日

1. 貴団体の活動の現状について、新型コロナウイルス感染症の影響を含めて教えてください（実施できていること、逆に、困っていることなど）。

7月後半に勇駒別温泉にて研究会メンバーによる勉強会を実施予定ですが、コロナ状況によってはキャンセルの可能性あり。

2. 大雪山登山シーズン開始以降の貴団体の活動の方向性について教えてください。また、登山道維持管理部会への対応など新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、これまでどおりできそうかなども含めて教えてください。

可能なら部会への出席は今まで通りに希望するものの、今年度よりオブザーバーの立場なので直接の意見具申をするつもりなく、メールでの情報拝受やHP上での資料閲覧でもいいと考えている。

3. 大雪山の登山シーズン（6月下旬頃～）において、登山者に対してどのような情報発信をしていくべきとお考えですか？もし、お考えがありましたら教えてください。

大連協で一定の枠組（基本的対応）を決めて、細かな部分は個々の主体に一任することで利用者に混乱や誤解を与えないようにお願いします。

4. コロナウイルス収束後、大雪山の利用拠点（ふもと）の利用、観光がどのように変化していく（またが変化させていくべき）とお考えですか？もし、お考えがありましたら教えてください。

情報の発信が重要となってくると思います。通年の利用入込の平準化（花と紅葉への集中を避ける）が必要かもしれません。

5. その他、上記1～4で、記載したりないこと等、ご希望、懸念など気になることをなんでもご記入ください。

当方は研究者集団でオブザーバーでありますので、地元の構成員の方々での決定を尊重いたします。

【回答先】

◎表大雪地域登山道維持管理部会 構成員・オブザーバー

環境省東川管理官事務所 国立公園管理官 齋藤

〒071-1423 北海道上川郡東川町東町1-13-15

TEL:0166-82-2527/FAX:0166-82-5086/E-mail : AKANE_SAITO@env.go.jp

◎東大雪地域登山道維持管理部会 構成員・オブザーバー

環境省上士幌管理官事務所 国立公園管理官 橋口

〒080-1408 北海道河東郡上士幌町字上士幌東3線235-33

TEL:01564-2-3337/FAX:01564-2-2933/ E-mail : SHUNYA_HASHIGUCHI@env.go.jp

新型コロナウイルスの影響による各団体の活動の現状と方向性について
【登山道維持管理部会アンケート】

回答団体名：NPO アースウインド

回答日：令和2年5月19日

1. 貴団体の活動の現状について、新型コロナウイルス感染症の影響を含めて教えてください（実施できていること、逆に、困っていることなど）。

全面的にストップ状態
温暖化データ収集の調査に登山できない。
2020年度のデータを失うことはデータ欠落となる。
毎年5月25日を定期的に調査期間開始としてきたが、、、困った。

2. 大雪山登山シーズン開始以降の貴団体の活動の方向性について教えてください。また、登山道維持管理部会への対応など新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、これまでどおりできそうかなども含めて教えてください。

NPO分野、ガイド活動の両方できず、活動に余裕がない。

3. 大雪山の登山シーズン（6月下旬頃～）において、登山者に対してどのような情報発信をしていくべきとお考えですか？もし、お考えがありましたら教えてください。

例年通りの登山道状況と閉鎖状況を平行して広報する。

4. コロナウイルス収束後、大雪山の利用拠点（ふもと）の利用、観光がどのように変化していく（またが変化させていくべき）とお考えですか？もし、お考えがありましたら教えてください。

入林届けの電子化＝個人情報である
登山道現況情報を各登山道入り口へ簡素であっても掲示できるよう配置
グループの人数制限（旅行業など20人以上の参加者とガイド・添乗で24名となる、登山道で休憩を取る場合、一般登山者へ多大な迷惑がある）
2003年環境省登山道審議会で発言したが観光協会より反対の意見あり、実現できなかった。コロナをチャンスとみてグループ人数の制限を積極的にしたい。

5. その他、上記1～4で、記載したりないこと等、ご希望、懸念など気になることをなんでもご記入ください。

登山道設備に対し、個々に希望の設備配置や登山道の歩きやすさ希望が違いうだろう。大雪山の良さは、山塊自体に急峻な岩場がなく危険とされる地図表記はオーバーであると考えます。言わばアクセスしやすい登山対象です。しかし広い尾根で標識が少なく、霧などあれば方向感覚をとるのが難しい人が大半だと感じている。長いガイド活動から登山人の判断力というより、初めての山塊で、本州と比較しても標識が少なすぎ、標識整備が急務である。高原沼温泉などインターネットが必要で救急対策などに役立てたい。

【回答先】

◎表大雪地域登山道維持管理部会 構成員・オブザーバー

環境省東川管理官事務所 国立公園管理官 齋藤

〒071-1423 北海道上川郡東川町東町1-13-15

TEL:0166-82-2527/FAX:0166-82-5086/E-mail : AKANE_SAITO@env.go.jp

◎東大雪地域登山道維持管理部会 構成員・オブザーバー

環境省上士幌管理官事務所 国立公園管理官 橋口

〒080-1408 北海道河東郡上士幌町字上士幌東3線235-33

TEL:01564-2-3337/FAX:01564-2-2933/ E-mail : SHUNYA_HASHIGUCHI@env.go.jp

アースウインドは高原温泉にインターネット要望のまとめをする予定でしたが、担当者の怪我により進んでおらず、活動自体が消滅しそうなことをお伝えします。

新型コロナウイルスの影響による各団体の活動の現状と方向性について
【登山道維持管理部会アンケート】

回答団体名： 富良野山岳会

回答日：令和2年5月14日

1. 貴団体の活動の現状について、新型コロナウイルス感染症の影響を含めて教えてください（実施できていること、逆に、困っていることなど）。

6月第2土曜日の「富良野西岳」及び6月第3日曜日の「原始ヶ原・富良野岳」市民登山会を中止しました。

また、東京大学北海道演習林内の旧国道・旧三の山小学校等の史跡めぐりも中止としました。（講師の予定でした）

2. 大雪山登山シーズン開始以降の貴団体の活動の方向性について教えてください。また、登山道維持管理部会への対応など新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、これまでどおりできそうかなども含めて教えてください。

山岳会の事業としての登山は自粛する旨、会員に周知し理解を得ている。

個人山行については、少人数で実施することを申し合わせしている。

各種事業は中止しても、登山道整備は例年どおり、刈り払い、風倒木処理等は実施する。特に原始ヶ原滝コースの丸太橋整備は必須である。

3. 大雪山の登山シーズン（6月下旬頃～）において、登山者に対してどのような情報発信をしていくべきとお考えですか？もし、お考えがありましたら教えてください。

登山者は待ち焦がれていると思われるが、集団登山は自粛されたい。

6月下旬以降に「コロナウイルス」が絶滅するとは限らない、密閉されたロープウェイ・避難小屋は要注意である。マスクして登山はすべきでない。

健康管理と自己責任の認識を向上させる。

4. コロナウイルス収束後、大雪山の利用拠点（ふもと）の利用、観光がどのように変化していく（またが変化させていくべき）とお考えですか？もし、お考えがありましたら教えてください。

完全に収束すれば、登山者は従来どおり戻って来ると思われる。

一方、ホテル・飲食店等の経営は困難を呈しているが、今後は経営能力が見直され、温泉があれば安泰という時代ではなくなるので、斬新なアイデアで経営改善を図るべきと思われる。

5. その他、上記1～4で、記載したりないこと等、ご希望、懸念など気になることをなんでもご記入ください。

【回答先】

◎表大雪地域登山道維持管理部会 構成員・オブザーバー

環境省東川管理官事務所 国立公園管理官 齋藤

〒071-1423 北海道上川郡東川町東町1-13-15

TEL:0166-82-2527／FAX:0166-82-5086／E-mail : AKANE_SAITO@env.go.jp

◎東大雪地域登山道維持管理部会 構成員・オブザーバー

環境省上士幌管理官事務所 国立公園管理官 橋口

〒080-1408 北海道河東郡上士幌町字上士幌東3線235-33

TEL:01564-2-3337／FAX:01564-2-2933／ E-mail : SHUNYA_HASHIGUCHI@env.go.jp

新型コロナウイルスの影響による各団体の活動の現状と方向性について
【登山道維持管理部会アンケート】

回答団体名： 富良野山岳会

回答日：令和2年5月17日

1. 貴団体の活動の現状について、新型コロナウイルス感染症の影響を含めて教えてください（実施できていること、逆に、困っていることなど）。

今はただただ、登山の自粛をするのみです。

2. 大雪山登山シーズン開始以降の貴団体の活動の方向性について教えてください。また、登山道維持管理部会への対応など新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、これまでどおりできそうかなども含めて教えてください。

だいぶ、難しいです。
個人のための整備になるかと思えます。事故などの危険があり、その時の対応が難しい。
また距離を空けての行動になりますが、その事も難しい。

3. 大雪山の登山シーズン（6月下旬頃～）において、登山者に対してどのような情報発信をしていくべきとお考えですか？もし、お考えがありましたら教えてください。

出来る限り自粛の方向で行ってほしい。
現在、富良野市もその方向で行っていますし、富良野観光協会のHPの中にも、そのお知らせが載っています。

4. コロナウイルス収束後、大雪山の利用拠点（ふもと）の利用、観光がどのように変化していく（またが変化させていくべき）とお考えですか？もし、お考えがありましたら教えてください。

ふもとの観光はダメージがあると思いますが、
草花などは自然の状態に戻ると思えます。
その事は良い方向に向かうと思えます。
それも、登山人数が少なくなればですが。

5. その他、上記1～4で、記載したりないこと等、ご希望、懸念など気になることをなんでもご記入ください。

しばらくは、登山自粛の方向で良いと思えます。
登山道整備については、少ない人数で日数を増やして行うのが良いのではないのでしょうか。

【回答先】

◎表大雪地域登山道維持管理部会 構成員・オブザーバー

環境省東川管理官事務所 国立公園管理官 齋藤

〒071-1423 北海道上川郡東川町東町1-13-15

TEL:0166-82-2527／FAX:0166-82-5086／E-mail : AKANE_SAITO@env.go.jp

◎東大雪地域登山道維持管理部会 構成員・オブザーバー

環境省上士幌管理官事務所 国立公園管理官 橋口

〒080-1408 北海道河東郡上士幌町字上士幌東3線235-33

TEL:01564-2-3337／FAX:01564-2-2933／ E-mail : SHUNYA_HASHIGUCHI@env.go.jp

新型コロナウイルスの影響による各団体の活動の現状と方向性について
【登山道維持管理部会アンケート】

回答団体名：美瑛山岳会

回答日：令和2年5月21日

1. 貴団体の活動の現状について、新型コロナウイルス感染症の影響を含めて教えてください（実施できていること、逆に、困っていることなど）。

美瑛山岳会は、3月末に定期総会を開催（書面総会）し、新年度の事業や予算は決めています。十勝岳山開きは中止、会員向けの登山会で移動や宿泊で「3密」リスクの高い事業は今年は実施は難しい状況。2～5月は山岳4団体の自粛要請により「ステイホーム」遵守した会員多数。

2. 大雪山登山シーズン開始以降の貴団体の活動の方向性について教えてください。また、登山道維持管理部会への対応など新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、これまでどおりできそうかなども含めて教えてください。

今後は、例年同様に十勝岳の規制・保護ロープ設置（6/13）、標識整備（6/21）、美瑛富士避難小屋携帯トイレブース供用開始（6/28）など予定しています。役場職員による十勝岳避難小屋清掃、備品確認も6月中には実施予定。美瑛富士避難小屋の宿泊規制等の話は今のところ出てません。

公共施設の休館や夜間会議室貸出し規制で、一定程度の人員が集まる会議が持てないのも困ってます。

3. 大雪山の登山シーズン（6月下旬頃～）において、登山者に対してどのような情報発信をしていくべきとお考えですか？もし、お考えがありましたら教えてください。

4. コロナウイルス収束後、大雪山の利用拠点（ふもと）の利用、観光がどのように変化していく（またが変化させていくべき）とお考えですか？もし、お考えがありましたら教えてください。

5. その他、上記1～4で、記載したりないこと等、ご希望、懸念など気になることをなんでもご記入ください。

6月以降の「連絡協議会」の会議等については、連絡いただければ出席は可能と思われれます。

【回答先】

◎表大雪地域登山道維持管理部会 構成員・オブザーバー

環境省東川管理官事務所 国立公園管理官 齋藤

〒071-1423 北海道上川郡東川町東町1-13-15

TEL:0166-82-2527／FAX:0166-82-5086／E-mail : AKANE_SAITO@env.go.jp

◎東大雪地域登山道維持管理部会 構成員・オブザーバー

環境省上士幌管理官事務所 国立公園管理官 橋口

〒080-1408 北海道河東郡上士幌町字上士幌東3線235-33

TEL:01564-2-3337／FAX:01564-2-2933／ E-mail : SHUNYA_HASHIGUCHI@env.go.jp

新型コロナウイルスの影響による各団体の活動の現状と方向性について
【登山道維持管理部会アンケート】

回答団体名：大雪山倶楽部

回答日：令和2年5月23日

1. 貴団体の活動の現状について、新型コロナウイルス感染症の影響を含めて教えてください（実施できていること、逆に、困っていることなど）。

3月50%、4月、5月は100%ガイド（スノーシューガイド）がキャンセル、6、7、8月の夏山ガイドはほぼ予約0の状態です。
自分の体及び、レンタル用品のメンテナンス、スキルアップなどに勤しんでいます。

2. 大雪山登山シーズン開始以降の貴団体の活動の方向性について教えてください。また、登山道維持管理部会への対応など新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、これまでどおりできそうかなども含めて教えてください。

紅葉期についてはまだ分かりませんが、8月一杯迄は時間がとれますので登山道の維持管理などできるだけ参加、活動したい考えです。

3. 大雪山の登山シーズン（6月下旬頃～）において、登山者に対してどのような情報発信をしていくべきとお考えですか？もし、お考えがありましたら教えてください。

道外からの登山者が圧倒的に多いため交通、宿泊などの整備が完全に戻るには今シーズンは厳しいのかもしれませんが。元に戻った時のためにも大雪山の現状（残雪、高山植物、登山道、避難小屋、ヒグマ、注意喚起など）を定期的に動画なども含めて発信してはいかがでしょうか。

4. コロナウイルス収束後、大雪山の利用拠点（ふもと）の利用、観光がどのように変化していく（またが変化させていくべき）とお考えですか？もし、お考えがありましたら教えてください。

完全終息するまでは三密をできるだけ回避しながら受け入れていかなければならないと考えます。

5. その他、上記1～4で、記載したりないこと等、ご希望、懸念など気になることをなんでもご記入ください。

収束するまでの期間、ガイド救済の支援策について期待しています。

【回答先】

◎表大雪地域登山道維持管理部会 構成員・オブザーバー

環境省東川管理官事務所 国立公園管理官 齋藤

〒071-1423 北海道上川郡東川町東町1-13-15

TEL:0166-82-2527／FAX:0166-82-5086／E-mail : AKANE_SAITO@env.go.jp

◎東大雪地域登山道維持管理部会 構成員・オブザーバー

環境省上士幌管理官事務所 国立公園管理官 橋口

〒080-1408 北海道河東郡上士幌町字上士幌東3線235-33

TEL:01564-2-3337／FAX:01564-2-2933／ E-mail : SHUNYA_HASHIGUCHI@env.go.jp

新型コロナウイルスの影響による各団体の活動の現状と方向性について
【登山道維持管理部会アンケート】

回答団体名： 大雪山倶楽部

回答日：令和2年5月25日

1. 貴団体の活動の現状について、新型コロナウイルス感染症の影響を含めて教えてください（実施できていること、逆に、困っていることなど）。

各山岳団体が、登山自粛を求めています。5月23日付け読売新聞には、「北海道山岳ガイド協会」として、本州と交通事情や山小屋の状況が異なるということで「規模を縮小しツアーを実施」しているとの報道もあります。個人的には、里山や日帰り程度の登山は許容範囲と考えていますが、団体としての行動については判断しかねています。

2. 大雪山登山シーズン開始以降の貴団体の活動の方向性について教えてください。また、登山道維持管理部会への対応など新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、これまでどおりできそうかなども含めて教えてください。

従来通りの活動は可能です。

3. 大雪山の登山シーズン（6月下旬頃～）において、登山者に対してどのような情報発信をしていくべきとお考えですか？もし、お考えがありましたら教えてください。

各山岳団体が、登山自粛を求めている中で、登山道維持管理部会としてあるいは大雪山国立公園連絡協議会として、この時期の登山について方向性が示されなければ情報発信の内容や方法について示すことはできないのではないのでしょうか。

4. コロナウイルス収束後、大雪山の利用拠点（ふもと）の利用、観光がどのように変化していく（または変化させていくべき）とお考えですか？もし、お考えがありましたら教えてください。

普通の観光客が元に戻るのに数年かかりそうな気がしますが、長期滞在型の山を目的としてくる人々は比較的早く戻るのではないのでしょうか。特にパウダーを求めてくる人たちにとって大雪山の低温による雪質と1～2月にほぼ毎日のように降る雪が常に新雪の状況をつくる特異性を持っています。

5. その他、上記1～4で、記載したりないこと等、ご希望、懸念など気になることをなんでもご記入ください。

旭岳北斜面ではその年の状況にもよりますが、姿見駅より1時間程度のところで7月末くらいまで夏スキーが楽しめます。高山植物保護等を行いスキー観光として利用できるのではないのでしょうか。（現状では旭岳ロープウェイはスキー持ち込み禁止で不可能です。）

【回答先】

◎表大雪地域登山道維持管理部会 構成員・オブザーバー

環境省東川管理官事務所 国立公園管理官 齋藤

〒071-1423 北海道上川郡東川町東町1-13-15

TEL:0166-82-2527／FAX:0166-82-5086／E-mail : AKANE_SAITO@env.go.jp

◎東大雪地域登山道維持管理部会 構成員・オブザーバー

環境省上士幌管理官事務所 国立公園管理官 橋口

〒080-1408 北海道河東郡上士幌町字上士幌東3線235-33

TEL:01564-2-3337／FAX:01564-2-2933／ E-mail : SHUNYA_HASHIGUCHI@env.go.jp

新型コロナウイルスの影響による各団体の活動の現状と方向性について
【登山道維持管理部会アンケート】

回答団体名： 大雪山・山守隊 岡崎哲三 回答日：令和2年5月18日

【※表大雪地域と同内容】

1. 貴団体の活動の現状について、新型コロナウイルス感染症の影響を含めて教えてください（実施できていること、逆に、困っていることなど）。

現状は夏山シーズン前なので大きな変化はありませんが、北海道以外での講演や業務がほぼなくなりました。
北海道においても依頼されていたイベントは中止や延期となっています。
今現在は毎年の農業を行ないつつ、夏季に出来る作業の企画等を考えています。

2. 大雪山登山シーズン開始以降の貴団体の活動の方向性について教えてください。また、登山道維持管理部会への対応など新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、これまでどおりできそうかなども含めて教えてください。

昨年まで行なっていたイベントなどの人を集める作業は現状のところ計画出来ません。しかしながら、当団体は少人数でも作業できるスキルがあり、大雪山の登山道やインフラを整備していくことが目的であるため、今期は少人数での作業効率をさらに高めることを考えています。また、登山道整備方法を内外に伝えるための資料作りや今まで作業した個所を調査し、とくに植生復元方法の手法を専門家を入れて検討します。今期は停滞ではなく、次へのスキルアップ期間にするという方向です。また、業務の量次第では、山岳関係者と共に登山道整備等を行いたいと思っています。

登山道維持管理部会への対応は、こちらから聞きたいところです。

できそうですか？

民間同士では会って話し合うことは普通に続けております。できないと言っているのは行政が多いように感じます。こちらはいつも通りです。

3. 大雪山の登山シーズン（6月下旬頃～）において、登山者に対してどのような情報発信をしていくべきとお考えですか？もし、お考えがありましたら教えてください。

各登山道やコースの状況をコロナ対策の視点で細かく伝える。
大雪山でのとくに込み合う場所や時期を知らせて、その時期や場所は感染確率が高いと伝える。来る人が各自で判断できるような情報を出す。大雪山には家を出てから誰にも会わずに帰ってくるようなルートは多々あります。内容にはルールと共に救助体制は整っていない、もしくはたいへん時間がかかる旨を載せる。要は現状の大雪山の管理体制を細かく載せることで登山者の自己管理を求める。登山は基本的に自己責任だと思えます。

登山口近くの混みあうコンビニや少し離れた込み合わない店も紹介し、分散を図ることもできるはず。自粛と言っても人は来ます。来た人を分散させる情報発信は人の少ない大雪山に適していると思えます。

本州の登山と大雪山の登山は人の量が大きく違います。流れに合わせる部分と、これからの流れを作る部分をしっかりと考えて伝えるべきだと思えます。

また、今期はいつもは人が少ないコースにも登山者が多くなると思えます。そうな

ったときにはどのような問題が起きるかを管理側で共有しておき、何か起きた時に後手にならぬよう、対応の結論を出しておくことは必要です。
利用者の視点と、来た人に対応する管理側の視点は違います。それらが伝わるように発信できなければ、誤解されますけどね。

4. コロナウイルス収束後、大雪山の利用拠点（ふもと）の利用、観光がどのように変化していく（または変化させていくべき）とお考えですか？もし、お考えがありましたら教えてください。

今回のコロナで、人が来ないと大雪山観光で養われていた分野が壊滅的になると理解出来ました。また、様々な人が現場の正確な情報を求めていることも理解しました。いち早く利用と情報発信をしていた方々もいたと思います。
求められている情報をしっかりと把握し、それぞれに特化した情報を出しつつ大雪山に限らない繋がりを作りながら、情報提示をし、迎え入れるインフラを整えることができれば、今まで以上の良い環境ができると思います。
間違っても、「時が過ぎればまた人は戻る」という受け身の考えにならないようにするべきだと考えます。
また、今回の管理側の対応で大雪山に嫌気がさした人がいたとしたら、周りから見比べて、状況判断が出来た人だと思います。そういう人ほどいち早く離れてしまう可能性があり、大雪山にとっては大きな損害だと思っています。時が過ぎたら良い人材は消えています。

個人的には、都市部の大変さや田舎の住みやすさ、テレワークで出来ることの広がり、自然環境の素晴らしさは、多くの人を実感したのではないかと思います。チャンスが見えすぎて、「何をやろうかな」と選り好みをするほど出来ることが多くなっていると感じています。

5. その他、上記1～4で、記載したりないこと等、ご希望、懸念など気になることをなんでもご記入ください。

大雪山へ来てコロナが拡大するとは思えません。自粛中のスーパーへの買い出しのほうが感染リスクは高いと思います。自粛と言って世間から叩かれないようにすることは簡単ですが、民間のダメージは計り知れません。大雪山の人の量と利用形態を内外に伝えて、国立公園の自粛解除の先駆けを作る、という気持ちで行動を起こすべきと考えます(科学的に大雪山登山でコロナ拡大がはっきりとしているなら別ですが)。

個人的には管理に迷惑がかかるから来るな、自粛しろ、というのは管理側が言うことではないような気がします。誰が来ても、どんな状況でも、その状況に合わせて努力するのが管理側であり、それを見て「自粛」しようというのが利用者側だと思います。なので、営業行為を自粛するのはそれぞれだと思います。

利用を「自粛してくれ」という場合は、現状の整っていない管理体制をしっかりと伝える発信になるべきだと思います。

もう一度言いますが、自粛するのは登山者であり、管理側は必死になって原状回復や次へのきっかけをつくらなければならないはずで、管理を自粛というのは公私混同ではないかと思っています。

山関係者、とくに山が好きで自営やアルバイトで生計を立てているような方々は、資本的な体力がなく、今回の場合は山から離れざるを得ません。死活問題なんです。それがどういうことか理解するためにも、話し合いや聞き取りの機会をもっと作る

べきだったと思います。

知り合いの間では、もはや今期の営業をあきらめている人もおられます。何も発信せず、動きのない大雪山に嫌気を覚える人もいます。新しくなった大連協が緊急時に何もしない団体だ、ということが明確になったとき、今後手伝おうという気は起きないでしょう。

とにかく動いて動いて、「馬鹿か」と言われても聞いて動いて、様々な人に希望をもたせるような行動が必要だったんです。

スタートは大失敗だったと思います。というよりうろたえているだけで何もしていないように見えました。スタートすらしていないですね。

「言われてからやるような管理者に誰が希望をもてるのか！」と自戒しています。

以上、登山道維持管理部会としての「管理側」と、大雪山で生業を得ている「民間側」の意識とを混合した意見です。

【回答先】

◎表大雪地域登山道維持管理部会 構成員・オブザーバー

環境省東川管理官事務所 国立公園管理官 齋藤

〒071-1423 北海道上川郡東川町東町1-13-15

TEL:0166-82-2527/FAX:0166-82-5086/E-mail : AKANE_SAITO@env.go.jp

◎東大雪地域登山道維持管理部会 構成員・オブザーバー

環境省上士幌管理官事務所 国立公園管理官 橋口

〒080-1408 北海道河東郡上士幌町字上士幌東3線235-33

TEL:01564-2-3337/FAX:01564-2-2933/ E-mail : SHUNYA_HASHIGUCHI@env.go.jp

新型コロナウイルスの影響による各団体の活動の現状と方向性について

【登山道維持管理部会アンケート】

回答団体名： 山樂舎BEAR

回答日：令和2年5月19日

【※表大雪地域と同内容】

1. 貴団体の活動の現状について、新型コロナウイルス感染症の影響を含めて教えてください（実施できていること、逆に、困っていることなど）。

収束の目処がたっていないため、日程を組むことも集客もできない。基本的に今季の自主的な活動は諦めている。

2. 大雪山登山シーズン開始以降の貴団体の活動の方向性について教えてください。また、登山道維持管理部会への対応など新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、これまでどおりできそうかなども含めて教えてください。

公募ツアーなどは実施せず、プライベートガイドのみ、感染予防に留意して行う。

3. 大雪山の登山シーズン（6月下旬頃～）において、登山者に対してどのような情報発信をしていくべきとお考えですか？もし、お考えがありましたら教えてください。

よくわからないが、避難小屋などでは社会的距離を保つように注意喚起するとか、感染予防に努めながらの登山をしていただくよう情報発信をするべき。

4. コロナウイルス収束後、大雪山の利用拠点（ふもと）の利用、観光がどのように変化していく（または変化させていくべき）とお考えですか？もし、お考えがありましたら教えてください。

ホテルの倒産や廃業・バス路線の縮小・観光バス会社やタクシー会社の倒産・廃業が予想される。レンタカー利用での個人や家族での旅行が主流になり、飲食店よりもコンビニなどでのテイクアウトの食事が多くなるのではないかと。

5. その他、上記1～4で、記載したりないこと等、ご希望、懸念など気になることをなんでもご記入ください。

ガイド事業者の中にはこれを機に転職するという人もいる。特に子育て世代や若いガイドの中には先が見えないことによるガイド事業への不安が大きい。これらの世代が欠けることで、技術やノウハウの伝承が難しくなる。

【回答先】

◎表大雪地域登山道維持管理部会 構成員・オブザーバー

環境省東川管理官事務所 国立公園管理官 齋藤

〒071-1423 北海道上川郡東川町東町1-13-15

TEL:0166-82-2527/FAX:0166-82-5086/E-mail: AKANE_SAITO@env.go.jp

◎東大雪地域登山道維持管理部会 構成員・オブザーバー

環境省上士幌管理官事務所 国立公園管理官 橋口

〒080-1408 北海道河東郡上士幌町字上士幌東3線235-33

TEL:01564-2-3337/FAX:01564-2-2933/E-mail: SHUNYA_HASHIGUCHI@env.go.jp

新型コロナウイルスの影響による各団体の活動の現状と方向性について
【登山道維持管理部会アンケート】

回答団体名： 新得山岳会

回答日：令和2年5月23日

1. 貴団体の活動の現状について、新型コロナウイルス感染症の影響を含めて教えてください（実施できていること、逆に、困っていることなど）。

- ・総会は書面で開催しました。
- ・6月中旬の佐幌岳の山開き登山会（山岳会主催）は中止としました。
- ・毎月開催の例会（会議）は6月迄中止にしています。
- ・毎月2つずつ計画している例会山行も6月迄中止としました。

2. 大雪山登山シーズン開始以降の貴団体の活動の方向性について教えてください。また、登山道維持管理部会への対応など新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、これまでどおりできそうかなども含めて教えてください。

- ・新得警察署・新得町・新得山岳会の合同で毎年6月中旬に実施している道迷い防止のためのマーキング登山は、新得警察署はすでに不参加の意向を示しており、実施するかどうか検討中です。
- ・北海道庁から委託を受けているトムラウシ南沼野営指定地の携帯トイレブース開設作業は、例年どおり6月下旬に実施すべきだと考えますが、十勝総合振興局と調整中です。
- ・毎年環境省から請け負って実施しているトムラウシ山の登山道巡視は、今年も実施できればと考えています。

3. 大雪山の登山シーズン（6月下旬頃～）において、登山者に対してどのような情報発信をしていくべきとお考えですか？もし、お考えがありましたら教えてください。

安全登山に繋がる情報は例年どおり発信し、コロナ感染対策は登山者自身がリスクを熟慮し、行動するしかないのでは？トムラウシ短縮登山口のバイオトイレ・南沼トイレブースは、環境保全のため開設すべきだし、感染対策を設置者が悩んだら閉鎖しておこうとなる。使用する登山者が除菌対策の当事者であり、登山含めて自己責任だと思う。

4. コロナウイルス収束後、大雪山の利用拠点（ふもと）の利用、観光がどのように変化していく（またが変化させていくべき）とお考えですか？もし、お考えがありましたら教えてください。

自然に例年並みに戻るのを待つしかないのでは？例年通りに戻るイメージで、登山道の草刈りなど維持管理は、可能な限り平常の行動を始めては。

5. その他、上記1～4で、記載したりないこと等、ご希望、懸念など気になることをなんでもご記入ください。

登山や散策は、緊急不要不急の行動だが、人間が文化的な生活・精神を維持するのに必要としている人もいる。国立公園内だから・施設管理者だから、とそう悩まないで利用したい人に開放して欲しい。

【回答先】

◎表大雪地域登山道維持管理部会 構成員・オブザーバー

環境省東川管理官事務所 国立公園管理官 齋藤

〒071-1423 北海道上川郡東川町東町1-13-15

TEL:0166-82-2527/FAX:0166-82-5086/E-mail : AKANE_SAITO@env.go.jp

◎東大雪地域登山道維持管理部会 構成員・オブザーバー

環境省上士幌管理官事務所 国立公園管理官 橋口

〒080-1408 北海道河東郡上士幌町字上士幌東3線235-33

TEL:01564-2-3337/FAX:01564-2-2933/ E-mail : SHUNYA_HASHIGUCHI@env.go.jp

新型コロナウイルスの影響による各団体の活動の現状と方向性について
【登山道維持管理部会アンケート】

回答団体名：(株) 北海道ネイチャーセンター

回答日：令和2年5月18日

1. 貴団体の活動の現状について、新型コロナウイルス感染症の影響を含めて教えてください（実施できていること、逆に、困っていることなど）。

5月31日まで、活動自粛中です。修学旅行の体験学習や旅行会社のバスツアーなどを扱っていますが、8月まで、ほぼ予約はキャンセルとなり実施しているツアーはございません。

2. 大雪山登山シーズン開始以降の貴団体の活動の方向性について教えてください。また、登山道維持管理部会への対応など新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、これまでどおりできそうかなども含めて教えてください。

現状では6月1日から営業開始見込みですが感染予防の為、人数限定で行ったり、開催できないプログラムもあります。
これから次第で何とも言えません。

3. 大雪山の登山シーズン（6月下旬頃～）において、登山者に対してどのような情報発信をしていくべきとお考えですか？もし、お考えがありましたら教えてください。

然別湖周辺では本州の様に数珠繋ぎ状での登山者密集は無いと思いますので現状通りで良いとは思いますが、旭岳や黒岳などは制限が当面必要なのか？

4. コロナウイルス収束後、大雪山の利用拠点（ふもと）の利用、観光がどのように変化していく（またが変化させていくべき）とお考えですか？もし、お考えがありましたら教えてください。

終息後も3蜜の場所はしばらくは避けられると思いますので、地元登山者は例年以上に増えそうですが、本州からは減りそうですね。

5. その他、上記1～4で、記載したりないこと等、ご希望、懸念など気になることをなんでもご記入ください。

大手旅行会社のツアーなどキャンセルが多く、終息後も引き続きガイド業者には厳しい状態です。

【回答先】

◎表大雪地域登山道維持管理部会 構成員・オブザーバー

環境省東川管理官事務所 国立公園管理官 齋藤 様

〒071-1423 北海道上川郡東川町東町1-13-15

TEL:0166-82-2527／FAX:0166-82-5086／E-mail : AKANE_SAITO@env.go.jp

◎東大雪地域登山道維持管理部会 構成員・オブザーバー

環境省上士幌管理官事務所 国立公園管理官 橋口 様

〒080-1408 北海道河東郡上士幌町字上士幌東3線235-33

TEL:01564-2-3337／FAX:01564-2-2933／ E-mail : SHUNYA_HASHIGUCHI@env.go.jp

新型コロナウイルスの影響による各団体の活動の現状と方向性について

【登山道維持管理部会アンケート】

回答団体名： ボレアルフォレスト

回答日：令和2年5月16日

1. 貴団体の活動の現状について、新型コロナウイルス感染症の影響を含めて教えてください（実施できていること、逆に、困っていることなど）。

緊急事態宣言が出ていることから、5/16現在、全てのプログラムの案内を中止しています。環境整備についても、不要不急の外出自粛要請を受け、フィールドへ出ることを控えているため、実施していません。

2. 大雪山登山シーズン開始以降の貴団体の活動の方向性について教えてください。また、登山道維持管理部会への対応など新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、これまでどおりできそうかなども含めて教えてください。

緊急事態宣言が解除されても、山岳団体による登山自粛宣言が解除にならない時は、お客様を連れての登山は控える方向で検討しています。フィールド調査や整備は、安全な範囲で個人で実施したいと考えていますが、今後の状況によってはわかりません。部会への参加はオブザーバーとしてなので、書面やメールで参加させていただければと考えています。

3. 大雪山の登山シーズン（6月下旬頃～）において、登山者に対してどのような情報発信をしていくべきとお考えですか？もし、お考えがありましたら教えてください。

難しい問題ですが、状況によっては、登山自粛をお願いする必要もあると思います。登山者に対しては、ごみの持ち帰り、携帯トイレの使用、一定の距離が取れる安全な場所でのすれ違い、混雑時は登山をやめるなどのお願いをしたいと思います。

4. コロナウイルス収束後、大雪山の利用拠点（ふもと）の利用、観光がどのように変化していく（または変化させていくべき）とお考えですか？もし、お考えがありましたら教えてください。

変化はないような気もしますが、自粛中に体を鍛えた方や近所の散歩をしながら過ごしていた方が、収束後、山へ出かけるケースがあるかもしれません。その場合、初心者の登山者が増えることになるので、マナーやルールを効果的に伝える準備が今まで以上に必要になると思います。

5. その他、上記1～4で、記載したりないこと等、ご希望、懸念など気になることをなんでもご記入ください。

→特にありません。

大雪山国立公園で登山を検討中のみなさまへ【案】

- 緊急事態宣言が発令されて外出の自粛が要請されていない限りは、心身の健康の維持のため登山をすることはできることとなります。

※ただし、各避難小屋など、施設ごとに定められている利用の取扱いやルールがある場合はそれを守ることが必要です。

- しかし、新型コロナウイルス感染症は継続していますので、「感染させない」「感染しない」ことが重要です。

- 登山をする場合は、登山者ひとりひとりが、自己の責任において、登山における「感染させる」「感染してしまう」ことのリスクを認識して対策・対応しましょう。

具体的には、

- ① 医学の専門家、全国規模の山岳団体などからの情報発信を一読して理解し、自分が行おうとしている登山について考えましょう。

※これらに対応しながら登山することに自信がない場合は、計画した登山を中止、延期することも重要です。

< 医学の専門家、全国規模の山岳団体からの発信 >

・ [一般社団法人 日本登山医学会](#)

・ 山岳医療救助機構 [登山再開に向けた知識「登山実践編」](#)

・ [< 山岳四団体声明 > 政府の緊急事態宣言全面解除を受けて 山岳スポーツ愛好者の皆様へ](#)

- ② 「**2020年度大雪山国立公園登山道注意事項**」（次ページ）を参照して、大雪山国立公園の登山中に「感染させる」「感染してしまう」可能性のある注意すべき場所を確認しましょう。

2020年度大雪山国立公園 登山注意事項 (2020年6月 日版)

①黒岳～旭岳

②大雪高原温泉沼めぐり登山コース

③忠別岳～ トムラウシ山～ オプタテシケ山

⑤石狩連峰、 ニペソツ山

④十勝岳

⑥然別湖周辺

○大雪山国立公園の登山道を6エリアに分け、
「3つの密」(密閉・密集・密接)状態を
登山者が自ら回避する行動をとるために
参考となる情報をまとめました。

○特に「3つの密」が想定される場所について、
注意すべき事項を解説しています。

それ以外の場所についても、山頂やトイレ
などを中心に、感染リスクの程度を登山者が
イメージできるように写真を掲載しました。

①黒岳～旭岳



ゲ
ー
行
通
行

②大雪高原温泉沼めぐり登山コース



③忠別岳～トムラウシ山～オプタテシケ山

イメージ

●ヒサゴ沼避難小屋
密閉状態になるため注意。



●ヒサゴ沼避難小屋トイレ



●南沼野営指定地

7月中旬～8月の休祝日は
テントが密集する。
(※写真：8月中旬)



●トムラウシ山頂

7月中旬～8月の休祝日は
登山者が多く集まる。
(※写真：7月上旬)



●携帯トイレブース
(外観)



●温泉登山口トイレ
(外観)



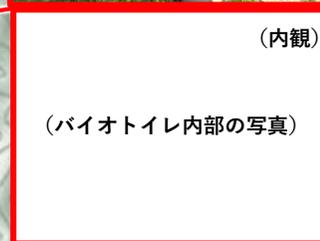
●短縮登山口バイオトイレ

(外観)



(内観)

(バイオトイレ内部の写真)



④ 十勝岳



⑤石狩連峰、ニペソツ山



●音更山頂



●石狩岳山頂



●携帯トイレブース (外観)



(内観)

音更山 1932
ユニ石狩岳 1756
十石峠

石狩岳 1967



●プロ沼野営指定地



●ユニ石狩岳山頂



●石狩岳シュナイダー登山口トイレ



●ニペソツ山 幌加温泉登山口トイレ



●ニペソツ山頂
7月中旬～8月の休祝日は登山者が多く集まる。

前天狗岳

幌加温泉

ニペソツ山 2013



イメージ

⑥然別湖周辺

イメージ



●南ペトウトル山頂



●天望山頂



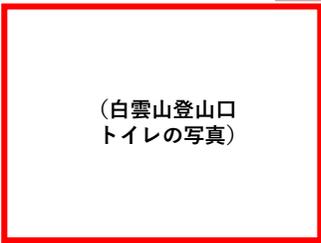
(然別湖畔トイレの写真)



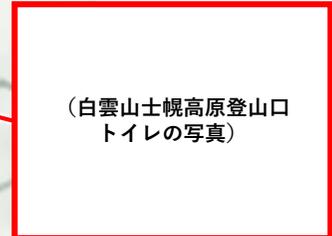
●白雲山頂
登山者が多く集まる。



●東ヌプカウシヌプリ山頂



(白雲山登山口
トイレの写真)



(白雲山士幌高原登山口
トイレの写真)



●西ヌプカウシヌプリ山頂



(扇ヶ原展望台
トイレの写真)



歩道等維持管理作業実施手順マニュアル【改善案】

R2.06時点

目的：大雪山国立公園登山道の適切な管理のため、補修案件の情報共有（情報公開）＋補修・施工品質の確保・向上

★改善案のポイント

- ◎補修作業を行う場合、事前に事務局に案件登録をお願いします（随時、様式はA4～1/2程度を予定、電話等でも可）
（※）昨年度のように、補修作業計画を立てる必要はありません。ただし、これまでに対応事例のない荒廃や崩落の場合は、昨年度のとおり、事前に補修計画を立てて検討します。
- ◎作業実施後、事務局職員が現場に行き、補修作業結果の確認を行います。
- ◎補修作業結果の記録は、大雪山国立公園連絡協議会ホームページに分かりやすく蓄積します。
- ◎シーズン終了後の登山道維持管理部会で、補修作業結果について、技術的検討を行います（関係者で話し合う場を設けます）。

手順	<p>①案件の登録</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画者から事務局に案件登録（A4-1/2ページの様式；場所、課題、工法の方向性）※負荷の削減 ・事務局担当職員がホームページへ掲載 <p><対象案件の精選化>※負荷の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ササ刈りに加え、次の施工は報告のみとする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ぬかるみ解消を目的とした掘削を伴わない木道の設置。 ・腐朽した木道の張替え ・段差を2段以内追加する段差処理 <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding-left: 10px; margin-left: 20px;"> <p>引き続き要検討 考え方としては、誰が行っても同じ結果となり、自然環境保全上問題が生じなそうなるものを報告のみ案件とする。</p> </div>
	<p>②案件のスクリーニング（対応の判定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・案件の内容に応じて、 <ul style="list-style-type: none"> ③-1：事前検討案件、 ③-2：事後検討案件、 ③-3：報告のみの案件 <p>に分けて、それぞれ計画者に伝える。</p> <p>※事務局が、案件に応じて判断する。 ※事前検討すべきと考えられるものについて、事務局で検討のうえ、WGメンバーの意見を聞いて決定。</p>
	<p>③-1事前検討案件：補修計画書の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象：これまでに対応事例のない荒廃や崩落 ・年間案件数：1～2件を想定 ■計画者に対して作業計画書の作成を依頼（事務局担当職員） ■WGによる計画書の事前検討（事務局担当職員） <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-left: 20px;"> <p><技術的助言の要請>※将来事務局専従職員が配置されて事前検討を行うまでの、代替措置</p> <ul style="list-style-type: none"> ■計画者が施工方法について幅広く意見を得たい場合、補修計画書を作成して、WGメンバーに意見を求めることができるものとする。 ・受付期間：シーズンオフ（10月～翌年5月） ・手順：計画者が補修計画書を作成して事務局に提出。 事務局からWGメンバーに意見を照会（2週間程度）。 WGメンバーからの意見を計画者にフィードバック。補修計画書を修正する。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ■計画者による計画書の修正 ■計画者による作業の施工 ■事務局担当職員による作業結果報告書の作成（請負業務の場合は計画者が業務で作成）
	<p>③-2事後検討案件：施工作業の現場助言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象：技術指針（及びその後の知見の蓄積）に基づき、施工計画の適切性を判断できる案件 ・年間件数：20件程度を想定 ■事務局による施工計画への助言（事前に自然環境保全上留意した方がよい場所等がある場合、不可逆な事例が生じないかとの観点から、登録様式からわかる情報のみをもとに、必要な案件のみについてコメント） ■事務局による施工結果の確認 ■事務局による記録報告作成（写真・文章＋動画） （請負業務の場合は計画者が業務で作成） ■事務局が、④-1の技術検討会で検討する案件（課題がある、意見が割れそうな案件）であるか検討（専門家の意見も聞く。）
	<p>③-3報告のみ案件：作業による報告</p> <p>対象：報告のみの案件としたもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■計画者が作業を実施 ■計画者が作業実施結果を、事務局に報告する（簡潔に、写真1枚＋基礎情報程度）（事務局で機会あるときに前後含む動画取得）。
	<p>④-1：登山道維持管理部会での検討</p> <p>対象：WGメンバー、部会参加者全員 開催時期：部会と同日（部会開催前の午前中）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■③-1の案件及び③-2のうち重点検討対象の案件を事務局が選定。 ■これらの案件について、報告書をもとに施行者から発表 ■参加者で議論。施工内容のうち修正事項をとりまとめる。 ■③-1の案件及び③-2のうち重点検討対象の案件以外の案件は、コメントがあれば、求める。
	<p>④-2：作業結果の報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ■事務局担当職員が結果をホームページに掲載 ■部会メンバーに確認するように促す。
	<p>⑤技術指針への蓄積の追加</p> <ul style="list-style-type: none"> ■1年間の実施結果をもとに、技術指針に追記すべき事項（特に施工の適切性に関する判断基準等）を蓄積していく。

※プロセスの妥当性、適切性については、シーズン終了後、ワーキンググループで議論して改善していく。

